

# タイ北部ウタラディット県における 民間主体のレスキュー・システム

——程逸善堂の事例から——

## The Mainly Private Rescue System in Uttaradit Province, the Area of North Thailand : A Case Study of Uttaradit Songkroa Foundation

中山三照

Mitsuteru Nakayama

(ラチャプリユックカレッジ 国際リサーチセンター (IRC))  
(Ratchaphruek College, Office of International Research Center, IRC)

### Summary

Uttaradit Songkroa Foundation was established by a local Thai-Chinese business manager in 1979. Today, it is mainly funded through donations from the small and medium-sized Thai-Chinese business groups in Uttaradit Province, and local citizens. This means that in Uttaradit province there is mainly private rescue system without the need for government subsidies over long period. The realization of rescue services without the need for government subsidies was strongly supported by Poh Teck Tung Foundation. Poh Teck Tung Foundation is the biggest Thai-Chinese charitable organization in Thailand. It has over 2,000 rescue workers comprised of mostly volunteers and paid workers.

This paper tries to consider the influence of Poh Teck Tung Foundation on the private rescue services in Uttaradit Province.

**Keywords :** Ruamjai Foundation, Uttaradit Songkroa Foundation, Mainly Private Rescue System without the Need for Government Subsidies, Poh Teck Tung Foundation

キーワード：清邁同心救災基金會、程逸善堂、公的補助金に依存しない民間主体のレスキュー・システム、華僑報徳善堂

## 1. 序 論

今日、タイ北部地域は、北部最大の都市であるチェンマイを中心に、ロングステイライフや短期スロウライフを目的とした日本人が急速に増加している。更に、豊かな自然環境と古い歴史遺産が多数現存するタイ北部地域は、近年新たな観光資源としても大きな関心を集めており、10月の観光シーズンには国内外から多数の観光客がタイ北部地域を訪れる。そして、同地域におけるレスキュー（緊急医療・緊急支援）活動を担っているのが民間レスキュー部隊である。現在、タイ北部地域は、チェンマイ県最大の華人系慈善団体である清邁同心救災基金會（Ruamjai Foundation）を中心に、多数の民間レスキュー部隊が存在する<sup>1)</sup>。タイの民間レスキュー部隊は、タイにおける華人系企業や地域の中小企業と地域住民の寄付金のみで運営され

ていることが大きな特徴である。本来、日本や欧米先進国においても十分な公的補助金が毎年必要とされる高度なレスキュー活動が、タイにおいては、企業と地域住民の寄付金のみで長期的に運営を可能としているのである。タイ北部地域の下部に位置するウタラディット県ウタラディット市には、タイにおける潮州系華人と客家系華人により設立された2つの民間レスキュー部隊が存在する。

本研究論文では、ウタラディット県最大の華人系慈善団体であるの程逸善堂のレスキュー活動について考察することにより、近年、タイの民間レスキュー部隊が直面する問題点についても積極的に論じることとする。

## 2. 観光資源として注目されるタイ北部地域と増加する日本人

今日、タイ北部ウタラディット県は、樹齢1500年以上のトンサクヤイと呼ばれる巨木が存在する広大な森林公園など、豊かな自然環境に恵まれている<sup>2)</sup>。ウタラディット県は、過去に「バーンポーターイト」という名で呼ばれており、ナーン川の右岸に位置するため河川交通の要所とされていた<sup>3)</sup>。ラマ5世の時代には、バーンポーターイトは県として認定され、ウタラディット（北方の港）という名前に改められたという<sup>4)</sup>。近年、タイ北部地域は、同県におけるトンサクヤイなど、タイ有数の広大な森林公園が存在することから、新たな観光資源として注目されており、10月の観光シーズンには、国内外から数多くの観光客がウタラディット県を訪れる。更に、タイ北部地域は、近年、長期滞在を目的としたロングステイや2-3ヶ月間の短期スロウライフを目的とした日本人（或いは欧米人）の数が、タイ北部最大の都市であるチェンマイを中心に急速に増加している<sup>5)</sup>。

これら、ロングステイライフや短期スロウライフを目的とした日本人の多くが定年退職者であり、定年退職後に海外移住を真剣に考えているサラリーマン夫婦や都会で定年退職の生活に不安を抱く日本の高齢者層が、海外旅行で何度か訪れたことのあるタイ国内をターゲットに、バンコクと比較すると物価が安く、治安も良く、そして、医療施設も充実しているチェンマイを拠点に、ロングステイや短期スロウライフを目的に定期的に足を運ぶようである<sup>6)</sup>。

在チェンマイ日本国総領事館の北部9県（チェンマイ県、チェンライ県、ランブーン県、ランパーン県、パヤオ県、ナーン県、プレー県、メーホンソーン県、ウタラディット県）における在留邦人数調査統計によると、2002年の時点では1,207人であったが、5年後の2007年には、2,538人と在留邦人の数が2倍以上の増加を示している<sup>7)</sup>。更に、在タイ日本国大使館の平成17年度（2005年）タイ国内在留邦人数調査統計によると、ウタラディット県の在留邦人数は僅か4人であったが<sup>8)</sup>、4年後の2009年度における最新の調査統計によると、同県の在留邦人数は10人に増加している<sup>9)</sup>。すなわち、タイ北部の下部に位置するウタラディット県においても在留邦人の数が、わずか4年間で6人も増加していることから、タイ北部地域は、ロングステイや短期スロウライフを目的に、引き続き日本人の数が増え続けることが予想されよう。

## 3. タイ北部ウタラディット県最大の華人系慈善団体である程逸善堂の発展

程逸善堂（Uttaradit Songkroa Foundation）は、1979年に、潮州系華人の劉焜盛により



図1 ウタラディット県最大の華人系慈善団体である程逸善堂  
出所：筆者撮影

設立されたウタラディット県最大の華人系慈善団体である<sup>10)</sup>。そして、1995年には、タイ政府に華人系慈善団体として正式に登録された<sup>11)</sup>。劉は当時、氷製造会社の経営者であったが、現程逸善堂理事長の羅裕城は、食材の冷凍加工会社を経営しているという<sup>12)</sup>。

今日、程逸善堂は、50以上の華人系企業及びタイ系企業の寄付金と地域住民の寄付金で団体は運営されているが、タイ政府からも約5%の補助金を受け入れている<sup>13)</sup>。だが、程逸善堂は、原則的にタイ政府からの補助金は一切必要とせず、団体は寄付金のみで十分に運営可能であるという。これは、近年における華人系慈善団体の大きな特徴であり、華人系慈善団体を中心とする民間レスキュー部隊に対し、タイ政府が積極的な関係構築の姿勢を示していることが大いに考えられるのである。

程逸善堂は、団体の慈善事業及び慈善援助活動として、貧困層に対する米の支給や不慮の事故により亡くなった身元不明者の棺桶無償提供業務なども積極的に行っている<sup>14)</sup>。更に、タイにおける華人系最大の慈善団体である華僑報徳善堂（Poh Teck Tung Foundation）との関係が団体設立当初から深い繋がりがある事情から、同団体の守護神は華僑報徳善堂同様に宋大峰祖師が祭られている。そして、大災害などにより多数の棺桶が必要な場合は、華僑報徳善堂から棺桶の一部を譲り受けているという<sup>15)</sup>。宋大峰祖師（Daihonggong）は中国の北宋時代に実在したとされる高僧である。政和6年（西暦1116年）、広東の潮陽県西南部和平里において、急な水流に苦しんでいた民衆のために自ら大橋を建造したことから、中国本土では、現在の広東省潮陽区及び潮州市などの極めて限定的な地域で、いわゆる地域神として信仰されている<sup>16)</sup>。1896年に同地からタイへ移住した華僑（中国国籍を持つ移民第一世代を指す）の馬潤により、宋大峰祖師金身塑像がバンコクのチャイナタウンへ持ち運ばれた<sup>17)</sup>。それゆえ、バンコク及び周辺の華僑移民に宋大峰祖師が広く浸透することになり、今日まで脈々と宋大峰精神がタイ国内においても受け継がれているのである。今日、宋大峰祖師の八つの倫理功德は、華人系最大の慈善団体である華僑報徳善堂やタイに定住する潮州系華人（居住国に完全に定着した移民第二、第三世代を指す）の精神的支柱となっている<sup>18)</sup>。更に、程逸善堂は、緊急医療・支援活動部門として民間レスキュー部隊を独自に運営しており、消防防災活動も必要に応じて

行っている。現在、レスキュー部門には、7名の有給レスキュー隊員が所属しており、程逸善堂の事務所長1名も合計すると8名が有給職員として働いている<sup>19)</sup>。

#### 4. 有給レスキュー隊員における適切な保険制度の必要性について

程逸善堂の有給職員の給与については、事務所長が毎月5,000バーツ（約13,600円）の給与が支給されており、有給レスキュー隊員の給与については、毎月4,500バーツ（約12,250円）が1名、4,000バーツ（約10,900円）が2名、3,500バーツ（約9,530円）が2名、3,000バーツ（約8,200円）が1名、2,500バーツ（約6,800円）が1名である<sup>20)</sup>。更に、レスキュー部門には、100名以上のレスキューボランティアが登録しており、1日平均20-30名程度のレスキューボランティアが有給レスキュー隊員とレスキュー活動に従事しているという<sup>21)</sup>。有給のレスキュー隊員は、ウタラディット市内の国立病院において、初級救急救命士（FR, First Responder）及び初級緊急医療士（EMTB, Emergency Medical Technician-Basic）の研修を修了しなければならない<sup>22)</sup>。一方、レスキューボランティアについては、少なくとも初級救急救命士の研修を修了することが要求されている<sup>23)</sup>。ちなみに、程逸善堂の年間レスキュー活動出動件数は、年間約1,800件、1日平均5-10件程度であるという。団体は、7台のレスキュー車を現在所有しており、内3台は、緊急医療が対応可能な車両であるという<sup>24)</sup>。

タイにおける民間レスキュー部隊の問題点は、レスキュー部門の有給レスキュー隊員やレスキューボランティアについても保険制度が設置されていない事例が多いことである。更に、給与は極めて低い水準であり、バンコク都内であれば、生活することは極めて困難な給与水準であっても、地方のウタラディット県であれば、物価水準も低いことから、何とか生活を営むことが可能であるという。これは、他の民間レスキュー部隊の事情とも類似しており、タイ中部ラヨン県における民間レスキュー部隊の中心的な存在である羅勇府萬田縣蓬萊七道閣（Ambulance Phuttatham, Banchang Rayong）も同様の状況であったことが先の調査で判明している<sup>25)</sup>。それゆえ、危険が伴うレスキュー隊員については、給与水準の引き上げと適切な保険



図2 7台のレスキュー車と必要に応じて消防防災活動も行う程逸善堂  
出所：筆者撮影

制度に加入できるような体制を早急に検討することが、タイの民間レスキュー部隊において、今後益々求められるといえよう。

## 5. 結 論

タイ北部ウタラディット県最大の華人系慈善団体である程逸善堂について詳しく論じたが、適切な人数により極めて合理的に民間レスキュー部隊が運営されていることが考えられよう。ウタラディットに限らずタイの各都市には、必ず民間レスキュー部隊が存在し、独自の民間レスキューの歴史が存在する。そして、民間レスキュー部隊の運営は、原則的に、全て企業寄付と地域住民の寄付金によりタイ全土で効率的に運営されていることは大変驚くべき事柄である。

一方、タイにおける民間レスキュー部隊の問題については、レスキュー部門の有給レスキュー隊員やレスキューボランティアについても適切な保険制度が設置されていない事例が極めて多いことである。危険が伴うレスキュー隊員については、適切な保険制度に加入できるような体制を早急に検討することが、タイの民間レスキュー部隊に大きく求められるのである。なぜなら、タイにおいては、公設レスキュー部隊は現在でも僅かな存在であり、今後も民間レスキュー部隊が、タイ全土でレスキュー活動を広域的に担うことが十分に予想されるからである。それゆえ、有給レスキュー隊員が安心してレスキュー活動に従事するためにも、給与水準の引き上げと同時に、大きな負傷に対して十分対応可能な保険制度を新たに設置すべきであろう。そのためには、民間レスキュー部隊を運営する各団体が定期的に協議を行うことにより、民間レスキュー部隊の更なる充実を図ることが、今後益々求められよう。

## 注

- 1) 清邁同心救災基金會 (Ruamjai Foundation) は、1990年に、華人系のウィラサック タヌポーン氏によって設立されたチェンマイ県最大の華人系慈善団体である。主にチェンマイ市内を中心に活動している。団体は現在、14名の有給職員と10台のレスキュー車を保持しており、更に、小型の船舶も1隻保有している (中山【2010】: pp.11-13)。
- 2) Global Internet Partner Utopia Co., Ltd. 【HP】
- 3) Global Internet Partner Utopia Co., Ltd. 【HP】
- 4) Global Internet Partner Utopia Co., Ltd. 【HP】
- 5) 中山三照 (2010), pp.9-10.
- 6) 中山三照 (2010), pp.9-10.
- 7) 中山三照 (2010), pp.9-10.
- 8) 在タイ日本国大使館【平成17年度タイ国内在留邦人数調査統計】
- 9) 在タイ日本国大使館【平成17年度タイ国内在留邦人数調査統計】
- 10) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエンゲルジッタム氏とのインタビューによる。
- 11) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエンゲルジッタム氏とのインタビューによる。
- 12) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエンゲルジッタム氏とのインタビューによる。
- 13) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエンゲルジッタム氏とのインタビューによる。

- 14) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエングルジッタム氏とのインタビューによる。
- 15) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエングルジッタム氏とのインタビューによる。
- 16) 中山三照 (2010), pp.11-12.
- 17) 中山三照 (2010), pp.11-12.
- 18) 中山三照 (2010), pp.11-12.
- 19) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエングルジッタム氏とのインタビューによる。
- 20) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエングルジッタム氏とのインタビューによる。
- 21) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエングルジッタム氏とのインタビューによる。
- 22) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエングルジッタム氏とのインタビューによる。
- 23) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエングルジッタム氏とのインタビューによる。
- 24) 2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエングルジッタム氏とのインタビューによる。
- 25) タイ中部ラヨーン県における民間レスキュー部隊の中心的な存在である羅勇府萬田縣蓬萊七道閣 (Ambulance Phuttatham, Banchang Rayong) においても、有給レスキュー隊員やレスキューボランティアには適切な保険制度が設置されていない。更に、有給レスキュー隊員の給与は極めて低い水準であり、常勤ドライバーが月々 6,000 バーツ (約 16,300 円)、副隊長兼事務所 (無線連絡係) 職員が 4,000 バーツ (約 10,900 円)、レスキュー隊員が 4,000 バーツ、そして、レスキュー部門の隊長でさえも僅か 4,000 バーツの給与水準である (中山 【2010】: p.17)。

#### 参考文献

- 中山三照 (2010) 『タイにおけるクリエイティブ・ツーリズムの発展と観光地域防災の新たなシステムづくり』, 電子書籍 BookWay
- 中山三照 (2008) 『公的補助金に依存しない社会事業の実現 タイにおける華人の慈善活動と民間主体のレスキュー・システム』, 青山ライフ出版

#### 参考資料

- Global Internet Partner Utopia Co., Ltd. (GIPU)
- 【HP】 [http://www.gipu.jp/new/modules/doc15/rewrite/tc\\_9.html](http://www.gipu.jp/new/modules/doc15/rewrite/tc_9.html)  
在タイ日本国大使館【平成 21 年度タイ国内在留邦人数調査統計】
- 【HP】 [http://www.th.emb-japan.go.jp/jp/consular/zairyu\\_09.htm](http://www.th.emb-japan.go.jp/jp/consular/zairyu_09.htm)  
在タイ日本国大使館【平成 17 年度タイ国内在留邦人数調査統計】
- 【HP】 [http://www.th.emb-japan.go.jp/jp/consular/total\\_05.htm](http://www.th.emb-japan.go.jp/jp/consular/total_05.htm)

#### 【インタビュー・リスト】

##### 【程逸善堂】

2010年5月7日、程逸善堂事務所長 ウドム サウエングルジッタム氏とのインタビューによる。